

平成17年12月の解説（府県天気予報）

【12月の天候状況】

上旬の中頃に本州の北部を低気圧が通過して全国的に雨や雪が降った後は、中旬終わりまで冬型の気圧配置が続き本州の日本海側の地方を中心に雪や雨が降りました。特に中旬には寒気が九州地方まで南下したため、西日本の日本海側でも雪が積もりました。下旬の初めに、低気圧が東北地方を通過してほぼ全国的に雪や雨が降った後は、冬型の気圧配置が続き日本海側の地方では雪の日が多くなりましたが、その他の地方では晴れの日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、平年と比べて日本海側の地方では少なく、太平洋側の地方では多くなりましたが、北海道では平年の160%を上回った観測地点もありました。降水量は東北地方の南部と本州の日本海側の地方で平年より多く、多くの観測地点で平年の170%を上回りました。一方、東日本、西日本の太平洋側の地方では平年より少なく、多くの観測地点で平年の40%を下回りました。月平均気温はほぼ全国的に平年より低く、東日本、西日本では平年より3℃以上低い観測地点もありました。

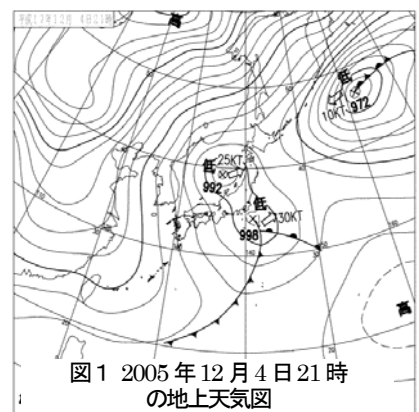
【12月の検証結果】

17時発表「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報では80%で例年^(注)より4ポイント低く、明後日予報では例年と同じ80%でした。地域毎の適中率は、明日予報は四国、九州北部、九州南部地方で10ポイントから12ポイント低くなりましたが、北陸地方では8ポイント高くなりました。明後日予報は四国地方で10ポイント、九州北部地方で6ポイント低くなりましたが、北陸地方では11ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、近畿地方で例年より0.2℃大きくなりましたが、東北、関東甲信、中国、四国地方では例年より0.2℃から0.4℃小さく、全国平均では例年より0.1℃小さい1.5℃でした。また、最低気温の予報誤差はほぼ全国的に例年より小さく、全国平均では例年より0.2℃小さい1.5℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

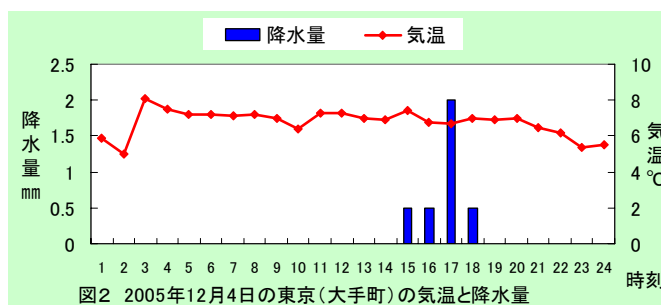
【12月の天気予報から】

低気圧が近づくと一般的に天気が悪くなりますが、低気圧がどこを通るかによって、天気のかずれ方は大きく違ってきます。例えば関東地方では、低気圧が日本海から北日本に進んだ場合には、低気圧に向かって暖かい南よりの風が吹いて気温が上がりますが、低気圧が本州の南海上を進む場合には、低気圧に向かって冷たい北よりの風が吹き、低気圧の前面（東側）で雨が降って寒くなることが多くなります。しかし図1のように日本海と本州の南海上の両海域を低気圧が同時に通る場合には、どちらの低気圧の影響が大きいかが関東地方の天気を左右します。



日本海と本州の南海上の両海域を低気圧が通過した 12 月 4 日には東京地方で雨が降りました。前日（3 日）に発表した東京地方のこの日（4 日）の天気予報では、天気を「くもりで夜雨」、最高气温を 13℃と予報しました。これは日本海の低気圧の影響が大きいことと、実際には本州の南海上を通過した低気圧が予報発表時点では東京より北を通過すると判断していたことから、東京では南よりの風が吹いて日中の気温は上昇し、雨はこの低気圧が通過する夜になってから降ると予想したためです。

実際の東京（大手町）の天気は、昼頃から降水量が 1mm にならない小雨が続いた後、夕方に雨となり、日中の気温は 7℃前後で経過しました（図 2）。低気圧が当初の予想よりも南を通ったことにより、東京地方では予想より早く雨が降り、冷たい北から東よりの風が吹いて気温が上がらなかったためです。



日本海と本州の南海上の両方に低気圧があってこれらが東へ進む場合の関東地方の天気予報は、それぞれの低気圧の進路と発達程度とを的確に予想しないと、雨が降る時間帯や気温の予想が大きく変わってしまいます。予報の難しい事例の 1 つです。

【2月の天気予報の利用にあたって】

2 月は 1 月と並んで 1 年で最も気温が低い時期ですが、低気圧が発達しながら日本海から北日本を進むと、強い南よりの風が吹いて、気温が急激に上がります。多雪地帯ではそれまでに降り積もった雪により、なだれが発生しやすくなります。

2004 年 2 月 22 日に日本海に進んだ低気圧が、翌 23 日にかけて発達しながら北日本を通過しました。22 日は低気圧に向かって暖かく強い南風が吹き込み急激に気温が上がって北日本や東日本の多雪地帯でも雨が降りました。この暖気と雨によりこれまでに降積もった雪が急激に融けて北陸地方の積雪の多い地域を中心に雪崩や浸水による被害が発生しました。ところが低気圧が通過した後の 23 日には、一転して冷たい北風が吹いて、気温が急激に下がって寒くなり、北日本では暴風雪となり、各地で風や雪による被害が発生しました。

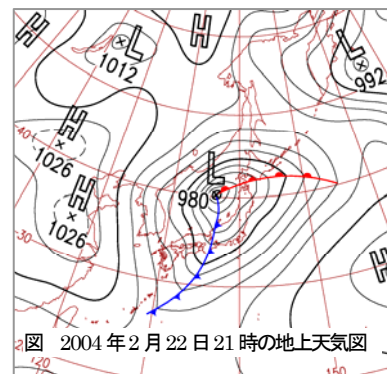


表 2004 年 2 月 21 日～24 日の金沢の気温、降水量、風速

	21 日	22 日	23 日	24 日
日平均気温 (°C)	11.0	15.4	5.7	7.3
日降水量 (mm)	—	38	2	—
日最大瞬間風速 (m/s)	11.2	28.0	23.9	12.1

このように 2 月に低気圧が発達しながら北日本を通過する時には、低気圧の通過の前後で気温の変化が大きく大荒れの天気になることがあります。特に雪の多い地方では雪がとけて浸水やなだれに注意が必要です。各地の気象台が発表する最新の気象情報に注意してください。